

一九五八年に日本を訪れたカナダ石炭業界の代表は、カナダの石炭が日本市場で競争力をもっていることを確認して帰った。その後、西部カナダから石炭のサンプルが送られ、日本の製鉄所に適していることが証明された。石炭は、これを機に、カナダの重要な対日輸出品となった。

一九六〇年代に入って、日加貿易は新しい時代を迎えた。貿易使節団が両国の間を飛び交い、両国の経済人は貿易促進や世界経済における双方の役割の可能性について討議した。また一九六二年には、ブリティッシュ・コロンビア州ニュー・ウエストミンスターと守口市が姉妹都市となった。現在、日加間の姉妹都市は十三組に増えた。今後はさらに多くなる見込みである。

カナダは菜種の世界的な供給国であるが、日本への輸出も急激に伸びた。石炭、

木材の輸出も順調に増えた。木材、石炭、小麦、鉄鉱石の対日輸出が増大するにつれ、ブリティッシュ・コロンビア、アルバータ、サスカチュワンといった西部諸州と日本との貿易関係は深まっていった。一九六〇年代には、また、カナダ小麦局、オンタリオ州、アルバータ州、ケベック州が、東京に事務所を設けた。カナダの大手銀行も、代表事務所を開いた。一九六〇年から一九七〇年までの間に、カナダの対日輸出額は、一億七千八百万ドルから七億九千三百万ドルへ、実に四倍も増えた。特に銅、木材パルプ、木材、菜種、アルミニウム、石炭、ニッケルの増加が著しい。いずれも、日本の工業生産がこの十年間に四倍伸びたことを反映して、第一次産品への需要が増えたからである。

ますます拡大する貿易関係

一九七〇年代に入って、カナダでは日本にもっとカナダの工業製品を輸入してもらいたいという要望が高まった。また、第一次産品は、もっと加工してから日本へ輸出したいという希望もあった。一九七一年に日本を訪れた、政府および民間からなるカナダの大型貿易視察団をはじめ、カナダ側はこれらの二点を特に強調するようになった。

カナダの対日貿易は、一九六〇年の一億一千万ドルから一九七〇年には五億八千万ドルに拡大した。日本製自動車の伸びは著しく、一九七〇年には対加総輸出額の十四・六パーセント（八千五百万ドル）を占めた。あとは鉄鋼六千八百万ドル、テレビ受像器二千二百万ドル、テ



日加間の貨物は、コンテナで輸送されるようになった。

ープレコーダー二千二百万ドル、ラジオ受信器千二百万ドル、オートバイ九百万ドルの順序であった。

日本の輸出品は、今や国際的評価を得た鉄、自動車、電子機器が主力となり、一九五〇年代の主要輸出品であった繊維製品と雑貨は発展途上国にお株を奪われた。

一九七三年、日本はカナダの伝統的な貿易相手国で、歴史的、文化的にもきずなの強い英国を抜いて、カナダ第二の輸出先となった。カナダの対日貿易は、その後も増加の一途をたどり、一九七八年には輸出が三十億ドル、輸入が二十三億

ドルを記録した。一九二三年以来、ずっとカナダの輸出超過となっている。

一九七六年、トルドー首相が日本を公式に訪問し、三本首相との間で日加経済協力大綱に調印した。この中で、両国は共同事業など産業界同士の協力、資源および加工・完成品（高技術製品を含む）の開発・市場開拓への協力、農産物の生産・供給における安定性の向上、相互に有益な投資の拡大を奨励・推進することに合意した。合意に沿って両国は各分野で協力を進めており、その中から日加経済関係の新しい躍進が期待されている。

対日輸入

1978年

対日輸出

(単位 1,000カナダドル, F.O.B.)

家畜	21	家畜	4,649
食料・飲物・たばこ	50,633	食料・飲物・たばこ	768,353
非食用原産品	7,280	非食用原産品	1,343,091
非食用加工品	440,926	非食用加工品	866,334
非食用完成品	1,740,724	非食用完成品	63,955
その他	23,650	その他	138
合計	2,263,234	合計	3,046,520